

## 主な記事

血液凝固の話	1頁
国際遺伝学会に出席して	4頁
サロソ	6頁
記念事業雑感	10頁
網系の構造(広告)	16頁

## 千曲會報

昭和31年11月1日発行

長野県上田市常入  
信州大学繊維学部内  
編集兼発行人 小山 長 雄  
信州大学繊維学部内  
発行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円

## 血液凝固の話

信州大学学長 佐藤 武 雄

我々が傷をして出血すると、血液がかたまるのは多量出血を防ぐための現象である。出血した場合血液が固まらないと多量出血により生命がおびやかされるのであるが、この様に出血しても血液が凝固しない病気を血友病という。

人間の血液は、血液を送るポンプ、即ち心臓の力により体内を循環していて、凝固の起る前段階にあり普通の状態ではこのまま凝固しないのである。

死亡すると大部分の場合血液は凝固するが、解剖して見て凝固していない場合がある。普通長い間病床に臥していた人が死亡して解剖して見ると大抵の場合凝固しているが、健康だった人が急に死亡した場合は解剖すると体内の血液は凝固していない。最近、死亡された尾高教授の様に、ヘパリンショックによる死亡も凝固していない。

健康な人が急に死亡すると、血液が凝固しないという事実があつて、これは法医学上、死因の判断の一大根拠となり、凝固していない場合は急激な死亡であると判断出来る。血液が死後凝固しないのは、絞殺等急激な窒息死とされていたが窒息死だけが凝固しないのではなく急激な死亡は全て凝固せず流動性である。血液の凝固にはトロンビンが必要であり、この凝固酵素がないと凝固しない。

流動性の死血にトロンビンの活性酵素を加えても固まらぬ。その中に繊維素元がないため固まらぬという事がかつては多数賛成を得ていたが、繊維素元を調べて見ると、流動性のものの中にも繊維素元が存在していて、唯それが変性した状態で含有されている。

血液凝固については多くの研究がなされたが、1914年に発表された村井氏の凝固説が根本となつている。新しく発見されたものが発表され今ではそれは古典的なものとされている。血液凝固は、次頁に示す様にその進む段階により4つに分かれていて、前の2つを第1階程、後の2つを第2階程といつている。第1階程は第1相、第2相；第2階程は第3、第4相より成つている。

プロトロンビンがトロンボプラスチン等の作用により、トロンビンになりフィブリノゲンはこの作用によりフィブリンになり、ゾルの繊維素元が形成され、ゲルに変化して血液凝固の主体をなすのである。

今まで、第1相と第2相に関する研究は多くなされたが、

フィブリノゲンからフィブリンに進む間は速いためこの研究は少ない。フィブリノゲンからフィブリンになる段階に於いて、直接ゾルからゲルになるかという事に疑問を抱き、1936~1937年に独乙で研究され、プロフィブリンの段階を通る事が発表された。

窒息死や急激に死亡した場合は血液凝固が起らぬという事を前述したが、血液が凝固していないのは解剖する時間が死後4時間から5時間多くは6~7時間又は10時間の長い経過の後であるが、この長い経過の後にも流動性である。

これについて色々の説があるが納得が行かぬのである。

人間を実験的に急激に殺す事は勿論出来ぬため、兎を20羽30羽と急激に殺して実験しても流動性の血液は得られない。犬も又駄目である。どの様な経過の後に流動性になるか解らないのである。

これは特殊な実験であるため人体を用いる事は困難であるが、人体でなければ結果が出て来ないのである。そこで思いつくのが死刑を執行したものをを用いるより外ないという事であつて、これを用いて追求すればどの様な経過の後に流動性になるかが解るのである。

死後1時間位経過すると、凝固時間が短縮する。この時心臓より血液は取りにくくなる。これは心臓の血液が凝固に傾いている証拠である。この時の繊維素元の量を計ると繊維素元に対する裏付けが出来る。2時間~2時間半経過後では今までとりにくかつた血液が、取り安くなる。3時間経過すると心臓から取つた血液は凝固しなくなる。

一般に死後凝固時間が短縮して行つたものがだんだん長くなり、流動性になる。人により異なるが、大体3時間経過後には流動性になる。これに関し血液中の繊維素元について調査した結果繊維素元が変性繊維素元になつているという事実をつかみ、このために長時間経過後に流動性になつてしまう。又繊維素溶解素がありこれを溶かしてしまう。心臓より取つた血液を試験管の中に入れておくと、試験管の中で一度凝固し、一定時間経過すると流動性になる。

ある程度長時間経過した後に解剖すると、血液が流動性であるのはこの様な経過をたどつているのであり、この血液凝固に関する研究は前述のごとく法医学の立場から色々な事件に於いて、死因の判断に重要な役割を持つものである。



## 国際遺伝学会に出席して

長島 栄一

本年3月、本学部の発展と学生の教育に人生の大半を御尽し下さった、佐藤春太郎先生が停年御退官された後、非才非力な私が遺伝、育種学の講義を受持つことになりました。あまりにも顕著な御功績を残された佐藤先生の後に、またあまりにも貧弱な私がこの大任を負わなければならないとは、まったく身にこたえる重荷であると申さなければなりません。今後出来る限りの努力を傾けてこの責任を全うしたく覚悟はいたしておりますが、皆様方の理解ある御援助を心からお願ひ申上げるものです。もつと早い機会に本誌を通じて御挨拶申上げたく思っておりましたが今頃になってしまいました。丁度去る9月6日から12日迄東京と京都で開かれました、国際遺伝学会議に出席いたしましたので、この機会にその模様の一部を御紹介して、御挨拶に代えたいと思います。限られた頁数ですので、極く簡単にその1、2について申し述べたく考えます。



今度日本で開かれた国際遺伝学会議(International Genetics Symposia)はSymposiumの形でなくConferenceの形がとられました。これはアジアで初めての生物学国際会議であることと、外国人から討議の範囲を広くすることなどの強い要求があつたために、この様な形をとる様になつたと聞いております。外国(20ヶ国)からは著名な遺伝学者達が参りましたが、特にアメリカからは65名の多数が、またソ連からも5名の参加者があつて、極めて盛んな会議でした。しかし我々に関係の深い蚕桑の遺伝の方では、イタリアのJucci博士(会議後本学部にも来学された)ただ一人であつた事は淋しい感じがいたしました。

この会の構成を述べることも、いかなる点に遺伝学の重点が置かれているかを知る意味で、必要かと思しますので次に記してみます。この会の構成は大別して2つの部に分かれ、第1部は染色体に関する諸問題の物理学的及び化学的攻究でこれが更にA:染色体の構造と有糸分裂、B:染色体の化学、C:癌の細胞学的考察の3学部に分かれてきました。第2部は応用遺伝学の諸問題で、これはA:人為突然変異、B:倍数性、C:雑種強勢、D:抵抗性、E:ポリソーン、F:微生物とウィールス、G:血液型の8部会に分かれてきました。

第1部の議題から見ても、主として形態学的に染色体を研究した時代から、物理的、化学的に攻究される時代に入つたわけで、染色体の分裂の機構、遺伝子の本体と考えられるD.N.A.の構造等が問題になつた様です。第2部の議題はいずれも重要な課題ですが、微生物とウィールス部会は興味を中心となつた模様です。この外に特別講演として、各部会合同の講演があり(Demerz, Lindgren, Stern, Glushchenko等相当数)、また開会の記念講演として、著名な遺伝学者のBeadle博士(California Institute of Technology所長、来年度ノーベル賞受賞有力候補)が「遺伝子の機能と構造」について(詳細は科学10月号を御覧下さい)次に田中義磨博士の「日本における遺伝学」の講演がありました。

出席部会については、あらかじめ決定されておりましたので、私は第2部会CのHeterosisに出ました(なお本学部か

らは蒲生先生が同じHeterosisに、関先生が第2部会BのPolyploidyに出席されました)。そこで特に特別講演とHeterosis部会で講演のあつたGlushchenko博士(ソ聯科学アカデミー生物科学研究員)とKushner博士(同)の発表について述べることにいたします。Glushchenkoは「Multiple Impregnation of plants」という題で、トマト、

トウモロコシ、コムギ及びオシロイバナ等の混精受粉を行えば、使用した多くの花粉のいろいろな性質が子孫に遺伝する。これは多精受精で説明出来るというものです。この発表に対して10人程のMendel-Morgan派の学者が質問に立ちましたが、Glushchenkoの発表は実験的事実を述べただけでしたので、結局事実は事実として認めないわけにはゆきません。しかしその遺伝する機構については、細胞質が多くの精子(花粉)によつて変化をうけ、この変化が2次的に核に影響を与えるものとすれば、一応説明が可能でしょうが、遺伝学の現段階とすれば、もつと生理学的に或は生化学的に究明せられるべきだと思います。Kushnerの発表は「Vegetative hybridization of animals」で、主ににわとりを使つた実験でした。例えば白色レグホーンに七面鳥の血液を移注すると、その移注をうけたものの後代の個体に七面鳥に似た遺伝性を有する羽毛が生ずるといふ様なもので、卵のアルビミンの交換、卵巣の交換移植等も行つて、血液移注と同様な結果を得ております。この発表も先のGlushchenkoのものと同様、その遺伝の機構についてはまだ研究が進められておりません。この様な現象はすべての生物に起るものではないと思われませんが、速かに遺伝の機構が究明される事が望ましいと思ひます。今度会議に出席したソ連の学者はMendel-Morgan派の人達の実験に対して、何から何まで反対するのではなく、実験から得られた事実に対しては認めなければならないという態度でした。この様な点からむしろ従来の遺伝学的な考え方が拡張されて研究が進められるべきだと思います。Heterosis部会における発表はこと更目新しいものは見当らなかつた様ですが、蚕(日本の研究者による)と蝶々を使つたものが非常に多く、我々に関係が深いだけに力強さを感じました。少し話が横道にそれますが、この部会で特に目立つたのは、Spurway博士(Holdane夫人)の態度でした。「ヘテロシスと生殖的隔離」という題で講演されましたが、講演の時を除いて、いつでも煙草を口にくわえ(よく見たらバツトだつた)、非常に早口でまくしたてていました。誰かが質問したのに対して「あなたはヘテロシスが何か知っているのか」と決めつけたのに驚きました。

全体の感じとして日本の遺伝学の研究が相当に進んでいるということ、微生物を使つた遺伝生化学の研究分野が著しい進歩をしているということを感じました。今後遺伝学の研究にたずさわる人達が、大いに努力してこの日本の位置を益々高くしなければならぬと、強く感じた次第です。Official languageが英語であつたために、講演の意味を十分に了解したり、質問や討議をしたりする点で、日本人達が困難を感じた事特に私にとっては極めて困難だつたことは、この会議に出席した価値を半減したように思われました。(本学部講師)

## 蚕糸・繊維化学の最近の研究

…… 学術雑誌よりの抄録紹介 ……

## 繊維物理

最近われわれの教室で入手出来た洋書の中、特に繊維、X線、流体力学及び各種レオロジーに関するものを簡単に紹介し、御参考に供したい。

## (1) 繊維の概説書

E. R. Kaswol : Textile Fibers,  
Yarns and Fabrics (Reinhold, ¥4,400)

著者は米国の F. R. L. の研究員で、有名な Hamburger の門下で繊維の研究をしている人、多くの新しいデータを集録し、比較的やさしく繊維、糸、織物の概説をしている。戦中戦後の文献に乏しいわが国では手頃な本といえよう。この本を参考にしたと思われる邦書に丸善から出ている松崎清一郎の「織物の樹脂加工」、高分子化学刊行会で出した呉羽紡吉川和志氏の「織物の腰、温かさ、汚れ」がある。

## (2) X線小角散乱

A. Guinier et G. Fournet (英訳: G. B. Walker) Small-Angle Scattering of X-Rays (Wiley, ¥3,000)

X線小角散乱の先駆者 Guinier が共著で昨年フランスで出版し、シカゴ大学の Walker が英訳したもの、理論と応用がこまかく説明されており、特に Kretky や Hoseman の研究が豊富に引例されている。前半の理論はやゝ難解であるが、Heyn 一派の Cellulose への応用例などは、すぐ実験に役立つものである。

## (3) 流体力学

M. Muskat : Homogenous Fluid Flow Through Porous Media (Edwards, ¥3,150)

最近粉体径や織度の測定に流体流れを利用しているが、本書は多孔体中の流体力学を扱った単行本としては、おそらく唯一のものだと思う。これは実は1937年に McGraw-Hill から出版されたもので、その後改訂され上記から出されたもの。著者は石油関係の仕事をしている人なので、主として地下水の運動を取り扱っているが、その数学的扱いは布の通気や通水などにもあて嵌り、繊維技術者、化学工業関係者により参考になると思われる。

R. Ower : The Measurement of Air Flow  
(Chapman, ¥1,930)

一昔前の1927年に出た本で、今度全面的に三訂されたものである。ピトー管、各種マンメーター、熱線式等理論と実際面を取り扱ったもので乾燥などの仕事に関係している人におすすめしたい。

## (4) レオロジー

C. Zener : Elasticity and Anelasticity of Metals,  
(The Univ. of Chicago Press, ¥2,000)

後半の非弾性の部分が特に興味のあるもので、高分子関係者も一度は読んでおいて損はない。

B. Gross : Mathematical Structure of The Theories of Viscoelasticity (Hermann, ¥780)

Gross はブラジルの人で元来は電気科学者、回路計算を巧みにレオロジーに応用し、J. A. P. に発表した論文をまとめたもの。分布函数の計算にラプラスやフーリエの変換を用い、又交流理論と同様粘弾性にも演算子を導入した点で注目されている。小さなパンフレットであるが内容は大部難解。これの翻訳とおぼしきものに小野木氏(高分子展望NO. 12)のものがある。

R. Meredith (ed) : Mechanical Properties of Wood and Paper, (North-Holland ¥2,700)

wood も W. W. Barkas が Paper を R. F. Shearman が書いているが、N-Holland のこのシリーズ中最も不出来で、表面的な記述に終始しているのは残念、姉妹篇の Mechanical Properties of Textiles があるが未だ入手出来ないので次の機会にする。

Scott-Blair (ed) : Foodstuffs Their Plasticity, Fluidity and Consistency (North-Holland, 邦訳, 新食品学, 朝倉 ¥850)

原書を買う前に訳本が出たので、邦訳しかみてないが、各種の事例が豊富に盛られている、特に編者、Scott-Blair の Psycho-Rheology は圧巻である。

Frey-Wyssling (ed) : Deformation and Flow in Biological Systems (North-Holland ¥4,000)

生体のレオロジーの最初の本、筋肉の収縮、原形質のレオロジー、細胞膜の粘弾性、血液、体液の流動等実に面白く取り扱われている。生物学者、医学者は勿論物理、化学の人でも興味も以つてよめる。

D. Vries : Elastic and Optical Properties of Cellulose Fibers (Elsevier ¥, 350)

著者はオランダの Herman 門下の人、この小冊子は氏の Doctor Thesis Longitudinal Wave Transmission Method により Cellulose のヤング率と粘性係数を測り、更に屈折率と比較しているうすい本であるが純然たる論文、難かしくはなくわが国の研究と重複している点もある。日本語論文の可否について考えさせてくれる本である。(繊維物理学教室篠原)

## 会 員 の 近 況

### 京 都 便 り

祇園祭が終つて間もなく、鴨川をはきんで東にも西側にも夕涼みのそぞろ歩きがもつとも盛んな7月も29日の夕方、京都市に在住の化学科卒業生が奥先生をはきんで久しぶりに同窓会らしいものを開きました。定期的に発行される千曲会報に真新しいニュースを載せることは如何に編集子が努力されても無理なことでしょうが、9月の末にこの原稿を書いている有様ですから活字になる頃には凡そピント外れの事柄に属するでしょうけれども当日の模様を少しばかりお知らせ致します。

出席された人達は(敬称略)

奥 教授

江 口 時 雄 (高分子化学kk 化 1)

松 本 昇 (京都染工 化 7)

上 原 寅 男 (京都染工 化大 1)

小 山 直 方 (京都染工 化大 4)

松 井 寛 一 (浜口染工 織機 1)

小 泉 仁 (浜口染工 化大 3)

西 島 靖 元 (大同染工 化 7)

村 山 守 生 (大同染工 化大 1)

片 桐 勝 司 (大同染工 化大 3)

深 井 英 男 (大同染工 化大 4)

と、11名でお解りの様に染物屋ばつかりの京都染色同業会の未来を背負うメンバーばかりです。

鴨川につき出したさじきは四条大橋のすぐそばのせいか東山をのぞんで京情緒もたつぶり、六甲山の高分子化学夏期大学を主催されてすぐかけつけられた奥先生は相変らずツヤツヤした健康そのもののお顔でその時の苦心談や参加された多くの人達について盛に熱辯を奮っておられます。江口氏は先生の話に相づちを打ちながら眼鏡越くに一座を見廻すあたり先輩の貫録十分。隅で静かにトツクリを整理しているのは松本氏。松井、西島氏は温厚そのものでよく後輩供を引き立ててくれます。

こゝまではありふれた集りと云えましょうがこの後御多分に洩れぬ二次会は祇園でした。主催は江口氏、真夏と云うに頭に重そうなカンザシを無数につけ、何枚もの華麗な着物を纏った舞妓さんと始めて尺余をおかずして席を同じくしたのは私一人ではなかつたようです。凡そ染物屋のサラリー等知れていますから、「月はおぼろに……」三味よし声よし、踊りも歌も場処も場処。鮮かな手さばき足さばきはともかく真剣そのものの表情には何かしら「道」を思わせるものがあります。うつとり見とれていると「君、酔売なんだよ相手は」と江口氏の声がかかりましたが、商売にしても本当に厳しい修練の賜物と思われれます。自分が京都に住んでいることを知

らされた様な一瞬でした。

化学一回の卒業でいらつしやる江口氏は肩書きはいかめしい取締役ですが青年らしい潑刺さに豊富な指導原理を会得された新しい型のダイレクターとでも云えましょうか。言葉の端々に何がはれる工場企業に対する謙虚な響きは深く印象に残るものであります。二次会をして頂いたからと云うわけではありませんが…。「江口はよくやつてくれた」とは奥先生がシミシミ云われた言葉。

化学科卒業の京都在住者はまだまだたくさんおられますが私供は比較的交流が多いせいかに1、2回は集ります。もつと広範囲な集りを大きな規模でしたらその意義も高くなりましょう。若い者たちの見識はどうしても先輩のそれに較べたら狭い例が多いでしょうから。(村山守生 化大 7)

### 二宮正三君(蚕28)遂に帰還す

今日帰るか、明日かえるかと、長い間期待されていた二宮正三君が、本年7月3日遂に帰還した。

君は二宮九二二(蚕4)氏の長男として生まれ、昭和16年本校を卒業した。就職は片金工業で、松本の普及団につとめたが、7ヶ月程で現役入隊した。その後は青年将校として大陸にあり、満洲で終戦を迎え、ソ聯に5年、中国に6年の長い異郷の遍歴をつづけたのであつた。

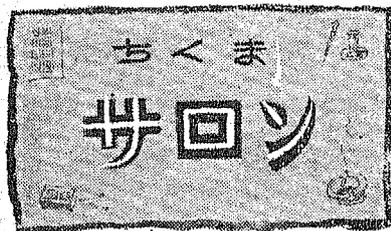
9月5日君を母校に迎え、千曲会館でさゝやかな慰労の会を開いた。倉沢先生・山口先生の御臨席をいたゞいたが、ほかは母校近くの同級生の水口米雄・清水比呂夫・金井勘治・外村吉高の諸君と、母校の松尾卓見とであつた。一別以来実に15年ぶりで顔を合せたわけであるが、案外に変わらない君であつた。しかし、学生時代の才気煥発の印象が消え、重厚謙虚な風を帯びて来た。それが日焼けした顔や逞しい腕とマツチして実にたのもしい感じであつた。仕事の長い空白については、何とも慰めようのない気持であるが、君が実に逞しい姿で還つてくれたことは、せめてもの救いであつた。これからは一日も早く君の職を探し、労にむくいねばならないと思ふ次第である。

君のお宅(現住所)は新潟県五泉市川瀬にあるが、農地解放で大方の土地を失い、代々つがれて来た蚕種製造の権利も失い、且戦争中の御尊父九二二氏が病床にあつて往年の面影がうすれ、いま弟さんが配偶をえられて家作をついで居られるようである。従つて君としては、家を出て独立せねばならない立場にある。入隊前に就職した片倉は、現役入隊であつた関係から、退社の形をとらざるをえなかつた事情にあり、復帰をのぞむことは至難のようである。君としては、とにかく職業の何たるかは問はず働きたい希望のようです。同窓の皆様の御同情御支援を切にお願いいたします。(松尾)

### お知らせ・お願い

12月号は總會(11月23日)のため休刊させて頂きます。従つて次号は32年1月1日発行となります。

御意見やサロンをどしどしご投稿下さい。



## 第二の見解

— 蕉 —

会報7月号に「一つの見解」と云う悪文を書いた。編集者が、これに勝手な袴を着せて「蚕糸業の現況をみつめて」と冠を着けて呉れたことは読者への親切か、会報の面子のためかは知らないが、筆者は不満、第一浴衣がけの放言文章と考えているのに冠や袴は不似合である。

ところで、此処で泥を吐けば、あの文章は実は唐沢大先輩の例の血組並協会、蚕糸委員会の提言に提灯を持つ心意で筆をとつたものだが一唐沢氏からは東京で2月にお聞きした一投稿直前に唐沢氏本人の文章が登載された5月号に接したので急遽あのように焼き直したのである。その後同氏の計画主張は着々進行しているとのことであるから、今更に冗言は不要と思われるけれども、例えば蚕糸界報六月号41頁の「そりいろく」欄には次のような文章がある。

「アジア協会が農業の指導開発に力を入れているのはいい。その農産物は自給を主とし、輸出しても日本の脅威どころか、日本商品の購買力も増そう。が蚕糸業は本質的に違う。現在指導援助に関係しているのは私的な業者や個人だ。内地より報酬や利益が多いと云う立場かららしい。そこに公的機関が関係すると吾が蚕糸業全体の問題になつて来る……」。

筆者は会報7月号の「一つの見解」の中に「今日既にビルマ印度には技術者を派遣し、レバノンにも蚕種を送つている。蚕糸人はお前の心配する程偏狭ではない、と云うかも知れない。それならば非常に結構である」と云う「反語」を用いて業界に今なお存在する偏狭な見解を恐れかつそれが唐沢氏などの主張に対するレジスタンスとなることを恐れた。

「そりいろく」の筆者は蚕界の良識と

して自他共に許されている人であろう。従つて前記の処論も恐らくは蚕界の常識として受け入れられるであろう。だが、果してそれで良いか。

勿論、蚕品種や、自働繰糸機や、最新式乾繭機を輸出した場合、それが何等かの意味で吾が国蚕糸業の競争力になると云うことは論理的には正しいであろう。然し厳正な意味での競争力と云うには相対的な「力」の比率に云うこと、「時」と云う要素を無視することは出来ないであろう。

現在吾国の産繭額、生糸産額は3,000万貫30万俵と見て良いであろう。これを一つの目安として考えた場合、吾国の繭産額が3,000万貫に達したのは明治37.8年頃であり、生糸生産が30万俵に達したのは大正5年頃であつて約40年の才月を要しているわけである。

ところで蚕糸業の海外での競争力と云うものを云々する場合には中共、印度、パキスタン、ビルマ、レバノン等が考えられるであろう。そしてこの競争力を厳正に評価するためには当諸国それぞれの蚕糸（養蚕）地域の広さ、実際に養蚕家に仕立て得る人口とを明かにした上で、更に其れ等の人達の民度と勤労性と云うものが正当に評価されなければならないであろう。即ち例えば今日の吾が国の蚕品種をそのまま提供し吾が国の飼育技術をそのまま伝授しようとした場合に、果して彼の国の個々の農家が吾が国の農家と同じように受け入れることが出来るであろうか？ 筆者はそれを大いに疑問に思う。そのことは筆者がそれ等の国の人々の民度と勤労性と云うものに対して吾々の同胞に対すると同程度には信頼せず、そして現段階の蚕糸業と云うものは、そうしたものによつて支えられねばならない程に集約性であり、ハイレベルのものであると信ずるからである。このことを前提とした場合、筆者はそれ等の国々が急速に吾が国の蚕糸業に追隨し強力な競争力になるであろうとは考えることが出来ない。

然し、それにしても以上の所説は最初のそして最大の前提条件である養蚕可能の地域と、その国の住民の数を明かにしておらない点からして論拠は極めて弱

いと言ひことは筆者も承知している一戸当りの取繭量が僅か1貫毎でも5,000万戸あれば5,000万貫の産繭が可能である一同時に蚕糸技術の海外移転の結果を恐れる人達も其処まで計算した上で云つていのであるか、何うかについても考えねばならない。

ただ、筆者は嘗て満州での蚕糸業の奨励が問題にされた当時、満州の蚕糸業が最大限、最急速に普及奨励されたとしても問題になる程度まで発展するには民度民族性を考へて少くとも30—40年の才月を要するであろうと推定した。同様の意味に於てここで問題とされている上記の国々が吾が国蚕糸業の競争力となるまでに生長するためには少くとも同じように30—40年以上の才月を要するものと考へるのである。が果して何うか！

蚕品種、蚕糸技術、蚕糸機械の海外移出を心配する人達は心から蚕糸業を愛する忠実な使徒であらう。それ等の人々に対しては衷心から深甚な敬意を表せざるを得ない。然し同時に借問する。それ等の人々は今日以後20年、30年後の吾が国の蚕糸業の健在を一社会、経済、科学技術その他諸々の進展の過程を洞察した上で尙かつ確信を以つて信ずることが出来るであろうか！斯業に忠実なのは良い。

然し視野は常に広く、かつ速くなければならないし偏狭であつてはならない、と云うのが「第一の見解」執筆の動機である。

…◇…◇…

「第二の見解」なる拙文は以上で終りである。ところで筆者は偶々蚕糸業振興対策委員会趣意書なるものの送附を受けたのであるが、その中に「特に中共に於ては昭和23年すでに産繭6万5千屯で吾れを凌駕せんとする勢いにあり、最近の香港相場も13万円と云う恐るべき事態に直面」とある。田舎者である筆者はこれで動揺した。狂瀾に物は云えないぞ！と。然し考へて見るとこれは可笑しい。蚕糸業者よ、周章てるな！と云うのが筆者の意見である筈なのに前記の13万円で周章てる、原稿を机の中に納い込んで了つたのだから吾れ乍ら恥しい。そう云えば周章てなくても良い材料も幾らでもある。

○中国は1954年に生糸の世界貿易に再

登場し、世界供給の15~20%を供給したが1955年には落伍したと信ぜられる(蚕糸新聞8月22日号)

○中共糸は対米輸出の余力なし(蚕糸界報9月号52頁)

○産繭量が明かでないその半量は杵蚕糸のもの…蘇洲、浙江あたりの繭は良いがマカオ、広東辺境では家蚕でも戸外で飼っているものが多い(蚕糸新聞9月13日号)

但し、これも直ちにそのまま全部を信じて良いか何うかは田舎者の筆者にはわからない。処詮照つているに限る。これが「第2の見解」の結論であり、従つて「第3の見解」はない。読者よ！安心あれ！

## 南米への旅

移民輸送保護の任を帯びて  
碓 水 茂

(前略) 8月15日神戸発、それから間もなく台風に逢いましたが大したこともなく、沖縄へつきました。沖縄の那覇の港では琉球出身の移住者60名の引率を琉球民政府の人から依頼され、總数220名となりました。これら220名の引率者は小生の外にアシスタントが一人つき結局二人で遠く南米まで引率することになったのです。

沖縄では年々2万人の人口増加の上に米軍基地としてドシドシ耕地を取り上げられ、どうにもやつて行かれないとのことです。しかも民政府の人を現地南米へつけてやることは喜ばないので、民政府では船のあるごとに日本の引率者にたのんで送り出すのだそうです。

これら、沖縄の移住者は全部自費なのです。渡航費の入手の不可能なものは移住すら出来ないのです。全く沖縄の人達はあわれむべき状態にあります。私の引率している人の多くは家族を引きつれた移住者で、単身移住者は10名ほどに過ぎません。だから一行の中には年寄りもかなり加っています。子供に至つては頗る多くザワザワしている有様です。

香港からあとの航海はまことに静かです。船は昨27日シンガポール港へ入港しました。ここで5日碇泊し、9月1日ベナンへ向います。ベナンからあとは印度洋です。印度洋をわたつて漸く南アフリカ、それから一路ブラジルへ向い、サントスでブラジルへ入植する移住者をおろし、わたくしは更にアルゼンチンへ行きブエノスアイレスでアルゼンチンへの入植者を引き渡し、更に川船によつて数日はラプラタ川を溯り、パラグアイ国へ向います。パラグアイ国への入植者は約50名ですが、パラグアイで小生の任務は終るのです。その後は自由行動で主として視察旅行ということになります。パラグアイとブラジルとを視察し、最後にサント

ス港から日本船(大阪商船のあふりか丸)へ乗船して、パナマ運河を経由してロスアンゼルスへ寄港して、その後は一路横浜港へといくこととなります。横浜港へは、12月31日着ということになつていますが1月に入つてから帰ることになるのがいままでの例になつています。

香港は物価の安い港でした。カメラなど日本の半値で買われます。その他の物資殆んど然りです。

明日はシンガポール市内をバスで遊覧することになつています。ここにある日本の領事館で手配してくれるのです。

シンガポールの夏はあつさまことにきびしいのですが時折夕立雨のようなのがやつて来て涼しくしてくれます。それがありがたいのです。ことに夜の月は素敵です。シンガポールの対日感情は悪くはないようです。時折現住民の黒ん坊さん達から日本語で、したしそりに呼びかけられます。戦争中に教えられた日本語を忘れずにいるのです。そういう日本語を聞くことやつぱり親しさを黒ん坊さん達に感ずるのは果して私一人でしょうか。

シンガポールには内地では見たことのないような甘い果物があります。今日は風があつて涼しいです。

では御健康を祈ります。千曲会員の皆様によるしく。早々シンガポールにて(本文は本学部蒲生教授宛のもの、紡3)

## ちくま- 第3回- クイズ ?はて?さて?

A氏は或る役所の課長さんである。経歴と貫録から人生に余裕もできて、家に帰ると唯一の趣味である俳句をひねつてはご気嫌をほころばせていた。さて或る晩、しこたま晩酌にあずかつてから、句作したらしいが、文字の配列はあいまいだし、おまけに他人の作のようである。だが〇〇生れの僕にはすぐ判つた。はて? この句の作者は一体誰と云われているでしょう。文字の配置を適当にかえてみて下さい。

### 問 題

なでつけばとおとしがほの  
ときはそら

(出題・波柿)

解答締切、11月15日

正解者には抽せんの上3名までに薄謝を呈す。

送先 千曲会編集部「クイズ」係なるべく葉書でお寄せ下さい。

第2回クイズ解答…10円銅貨裏面の一部。解答26名 正解24名。抽せんの結果下記の方に賞品を贈呈しました。

加藤敏雄様(福井市) 池田達男様(富山県) 高橋公一様(上田市)

## 突然変異の心境

自衛隊北部方面隊  
3等陸尉 茂 木 蕃

木枯しの吹く季節となつて来た今日此の頃、北の端、北海道より懐しい母校に一筆駄辯をはき突然変異的な吾々の身近な事をひろうすることに致します。

さて私は冒頭に妙な事を云つたけれども現在税金の虫と云われている自衛隊におるものであります。世の中で最も階級制度が確りしているこの社会、又生産性皆無の社会の認識がいくらかでも高まつてもらえたら幸いと思ひます。

愛国心と云う事は皆様の頭の中にはあまり身近に感じない現世代に於いて階級任務と云う一つの有機体を組織している社会に於いては最も重要なものとなつて、この愛国心は貴方達がオリンピックで日の丸を揚げたいと云うその気持と同様なものであります。清水幾太郎の愛国心にも書かれている様に、故国に対する自然的な愛情と國家がそのメンバーに要求する最高の奉仕との関係につきるのであります。勿論、お前はそんな事云ふが昔の軍隊は何んだと云われると思ひますが旧軍隊の欠点は、欠点としてそれを除いた新しいものを作つて居るのです。狂信的な観念的な旧弊をなくしている現在の吾々組織体は、確かに皆様のいる会社、官庁よりは幾分住み良い所です。旧軍隊はあまりにも愛国心と云う事に人為的な為、それが呪詛になり一つのイントランスになつてしまつたのです。

現世界情勢に於いて、吾が國家のおかれています地位、今回の日ソ交渉の状態、又韓國との漁場問題等は一つの弱体に起因しているのです。

又米國の國防の一道具と云われているけれど現在の自衛隊はそんなに身乗りはしていません。米國は米國、ソ連はソ連、その両方の最も良い点を取つて外國の侵略を自力で防げる又外國との交渉に際し一人前に口のきける日本にするつもりであります。さて私は一昨年本校を卒業後直ちにここに幹部候補生として入り、現在3等陸尉とし特科、即ち砲兵科に所属北辺防衛の一部隊に勤務しています。が部隊運営も会社などでやつている企業合理化と同様、マネージメント、トレーニングプログラムと云う風な教育も全幹部が受け、人事管理、部隊行政の合理化を計り部隊の組織をより良い方向に向ける様指

導者は相当努力しています。現在自衛隊には私他5-6名の卒業生が各分野にわたって勤務しております。又、長野県の方も相当おります。

自衛隊員の素質はだんだん良い状態になっており現在入隊する者は純心な農村青年が大多数であり部下になると本当に真心をもってやってくれ、真に子供に対するような気持がします。現在は私は作戦参謀の下に働いており部下がいないので淋しいような気がする位です。

喬糸業が退勢にある今日、吾々のような方面に進出する事も相当な覚悟があるならば良い事と考えます。

千曲会報を拜見し、母校の消息をみるにつけて懐しい常田の池を思い浮べ、又級友の声を聞くような気持でこの文章を書きました。

もう北海道は冬に入ります。羊のいる牧場、その中に赤緑のサイロ、田園風景異国情緒のたつぷりしたこの土地も旬日をへずして冬將軍の到来が身近になりました。この紙上をかり平常御無沙汰している先生及び同期生の方の御精励を心から御祈りします。(登大 2卒)

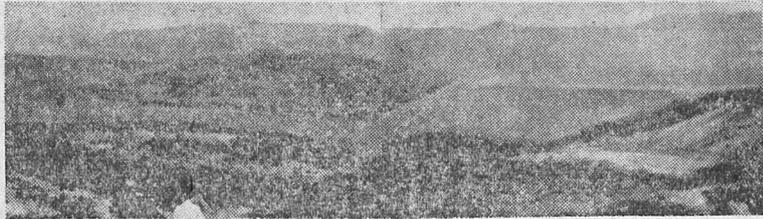
北海道千歳郡千歳町自衛隊駐屯部隊  
幹部宿舎 10号室

## 療養雑詠

### 北斗洋々

○義理で来た見舞は窓辺で立ち話し昔は肺病の出た家の前は口をおさえて走って通つたものです。今でもお義理でお見舞に来てくれた人は風上の窓辺で立つたままアツサリ話してサツト帰ります。人情紙の如しか。

○長病んで真の友達おしえられ5年、7年と病床にあつて見て始めて真の親友が知らされました。終戦10年未だに忘れず毎年来てくれる昔の部下もあります。入院と聞いてわざわざ釧路からかけつけて来てくれた人もあります。(札幌→釧路は汽車で15時間位)学会で来られた同窓の方に尋ねて頂いた時、うれしくて涙が出ました。



--- 屈 斜 路 湖 ---

○子宝に家の障子はポナンザで落書と破れ障子も今流行のポナンザと見れば又がまんが出来ます。

○お月様のぞいて恥し蚊張のなか蚊張の中に寝ていたのは拵せぎすの患者だつたか、花嫁さんだつたか知りませんが、あまり暑いのでフトンをはねのけこれを照らしたお月様の方が恥しくなつたとか。

○子の様なナースにお叱言頂戴し『安静時間に将棋などやつてはいけません』『ハイすみませんでした。』自分の娘のような看護婦さんに注意されて頭かきかきベットに入るおちさん達。療養所ならではです。

○高圧線光り始めてきびを焼く向いの山の中腹を走る何万ボルトかの高圧線が西日に反射して、きうきうし始める頃になると唐黍が色づき始め療舎のあちこちに黍焼きが始まります。

○大根足ぶよに喰われてはれあがり此の頃の娘さんに大根足はあまり見られなくなりましたが、それでも北海道にはまだ大分あります。その大根足がぶよに喰われて張れ上つた態を御想像下さい。

○ぶよのあと昨夜のたのしみ物語り遠来の友かそれともボーイフレンドか、ぶよに喰われたのも知らずに夢中で話してこんでいた昨夜、朝になつて驚いています。「夏草やつはもの共の夢のあと」に通ずるものもあるかも知れません。

○治りたい 治りたい意見が衝突し『アナタ、だから駄目なんですよ。』『何云つてんだ。ちやんと医学の本に出てたんだし、○○博士もそう云つてるんだぞ』と理屈には勝つたが果して？

お互い治したい、治りたい長病みなのに意見が喰い違ふとは。

○学会も鎖夏で集る北海道毎年夏になると北海道には学会が幾つも開かれます。今年も何千人かの先生方が集つて来たようです。学会でもなければ来られない、否用のない北海道、然も夏は軽井沢以上に涼しい処、先生方には大いに魅力で家族連れて来られた方も随分あつた由。

○学会は阿寒のほとりでビールのみわざわざ北海道迄来たのだから…と云つても東洋一の登別温泉へ行くには先生方の旅費は余りに淋しい。せめてマリモのある阿寒の麓へでも行つて雄大な北海道の風景をサカナにビールをあける。君学会の方は宜しく頼むよ。

○最大のレジスタンスと川柳をよむ<sup>うた</sup>医療券を打切られても、附添をとられても、とこぶせの患者にはデモもストも出来ない。せいぜい川柳でも作つてレジストするのが関の山である。

以上 夏季雑詠より  
上の写真は、美幌峠から見た屈斜路湖です。

向いの山の合間にかすかに見えるのが有名なマリモのある摩周湖です(共に君の名は映画にある風景です)。中央のニ中の島には先年の15号台風による風倒木が9万石もある由ですからその大きさが想像されると思います。この頃、筏で対岸に運んでるそうですがこれが又珍しいものだそうです。この美幌峠の後に峠阿寒、雄阿寒がある訳です。内地の十和田湖や、諏訪湖を観た目では想像のつかない雄大なものです。

長女が先年の夏、写して来たもので技術がまずく御紹介するには耻しいのですが北海道を知る一助にもとお送り申し上げます。

北海道は直ぐ近くの山迄白いものが来始めました。開放生活の寒さが身に染みる時季になります。

皆様何卒お体大切に病気にだけはならぬよう異々も御自愛の程祈ります。

10月2日

白川療養所にて (蚕19)

### サ・エ・ラ

神 林 浩 三

一第6話一(コールガール)長野県選出のある社会党代議士が、半公開の席上でこんな事を云いましたが、本当か知ら。

東京の真中に現在「東京租界」なるものがあり、此処は租界なるを以て日本の警察権は全然及ばず、奴等は相当悪どい事を行つているとの事。一その1例一元進駐軍関係者の一味が経営する特殊ホテルが該租界にあり、現進駐軍高級将校を対照とする高級〇〇を営む為には日本人良家の子女を漁り、これと月星をつけた良家の娘を執念深く狙い、2ヶ月でも、半年でもかけて誘かい、初めヒロポン注射で徹底的に賣身且中毒墮落せしむる由。現在東京のオフィスガール、デパートガール中に、この種高級〇〇あまたあり、称してコールガールと云う一彼等豪語して曰く、ここ数年にして全東京に処女なしの好況を将来せんと。まさかと思うが東京人の具体的反駁を期待するの切なるものあり。

一第7話一「外灯」一長野市北西の高台にアベック 逍遙に好適地ありと思召せ。その又格好の場所にベンチあり、吾等住民相計り当該場所に外灯1ヶ寄附し侍り悦に入り申候処、如何なるものにやつければ消え、点灯期間より消灯期がずんと多き状況に御座候。依而その原因を探究しました処、アベック組には電灯は邪魔なるものの如く、石もて該電灯を故意に破壊せるものと判明、今後の処置目下考究中に御座候。

一第8話一 現在、当長野市に「上級英

米文学研究サークル」なるものがあります。ここ3ケ年来主として米国文学を探り上げ W. Faulkner, H. Melville, N. Hawthorne, F. S. Fitzgerald, 等の諸作品をやつて来ました Circle-memberも短大の professorあり、高等学校教師あり、果樹経営者あり、で種々雑多でそれ丈け variety に富み、大要有益且つ面白い集りと云えますが、当初約20名の会員が現在8名程度に減じておりますが、この8名の人々の熱心さと研究心には全く驚くべきものがあります。Faulknerの作品は一般に難解と云われているにも拘らず、これ等の memberの協同研究によつてよく masterしてあります。こういった研究の集りは各地に見られるとは思われますが、こんなに熱心に継続している例は珍しいと考えますがどんなものでしょうか。

一第9話一 この間、何処かで行われた街頭録音を聞いてたら相当の智識階級と思われる人の話の中にシンヂュウという語句が盛んに使われまくし立てておりましたが、話の前後から考え、どうも「慎重」の意味らしいのですが私共はこれをシンヂョウと読んで参りましたので一寸奇異に感ずると共に、或はそんな読み方が流行してるのか知らとも思つて改めて

自分の浅学ひ才を痛感致しましたような次第でございます。

一第10話一 最后にも一つ=最も肝要な問題について広く全国千曲会員の諸氏の積極且つ建設的御意見をどんな方法でも結構ですから、千曲会当局に寄せて頂きたいと思ひますのは、先般米、千曲会理事会及母校創立50周年記念事業計画準備委員会に於て種々検討論議されております処の、重点記念事業の事でありませう。これについてはもつともつと一般会員諸氏が関心をもち、各位の意見を卒直に申し出て差支えないと思ひます。

何となれば千曲会の記念事業として半永久的に存続可能の事業でもあるからです私の考える処では皆さん余りに遠慮が深過ぎると思われませう。謙讓の美德はこの場合絶対御無用に願つて、支部・支会を通じて、通じなくても適当な方法で各位の御考えをもつともつと本部に反映させる事が、いわゆる民主的でもあり且つ記念事業たる所以でもあるのですから。この点未だ未だ本部役員(私も含めて)のこの趣旨徹底方法に欠く点がありはせぬかと反省させられますが、記念事業は千曲会会員全員の記念事業である点を忘れてはならないと痛感しておる次第でございます。(樹4)

## 新刊 栃木県千曲会支会

宇都宮市  
1956. 8. 19.

仁木 英夫  
高橋 記一  
芳谷 富雄  
白石 金造  
蒲生 教授  
大村 正三  
田島 正三  
桜井 友吉

### 栃木支会をつどい

8月19日(日曜)母学の蒲生教授が10数年振りて宇都宮市を訪問されたのを迎えて午後2時頃から一料亭で歓迎会を開いた。参会した者は高橋記一氏(支会長)芳谷富雄氏、白石金造氏と蒲生教授が大正6年頃、小山の蚕業試験場創立当時の県庁の僚友だつた雨宮五六氏と小山市の

昭栄製糸から馳せ参じた田島正三氏と桜井友吉氏の7人であつたが、久振りでの昔話、思出噺に花を咲かせて夜の更くるをも知らなかつた。その翌日8月20日に栃木県蚕業課と宇都宮大学に蒲生先生を案内し、更に帰途小山市に下車して思出の栃木県蚕業試験場と昭栄製糸小山工場に挨拶をして小山発帰途につかれた。

(栃木支会幹事)

## 記念事業雑感

松尾卓見

最近の同窓会の仕事のうち母校50周年記念事業の計画が最も重要であることについては、誰も異存がなからう。この事業計画は、他の事業の場合とは異つて影響するところも大きく、又同窓会の性格をきめるものであるから、安易に考えてはならないと思う。先月号に高木さんが「一筆啓上」しているが、母校にとっては半世紀に一度のことであり、1,000万円からの募金が問題にされている以上、現在母校を運営している同窓生以外の職員の意見も十分に尊重する必要があることは当然である。少くとも、きめて了つてから変なしこりなどを残さぬよう注意してほしいと思う。

ところで御承知のように3つの案が出ているが、私は繊維会館案に対しては強い反対意見を有するものである。10月13日に母校で行われた上小地区の準備会で発表になつた繊維会館計画小委員会の案によれば、建築予算は1,000万円、建坪は延200坪、二階を100坪の大ホールにして、下は貸店舗3部室(10坪宛)・応接室(10坪)・事務室(6坪)・日本間3部屋(4坪宛)・小会議室(10坪)・管理人室(10坪)その他にするらしい。年間収入予想は大ホール使用料が12万円、貸店舗18万円、日本間会議室使用料3万円で合計33万円、これに対し支出予想は電燈料5千円、水道料1千円、火災保険6万円、税金5万円、修理費5万円で合計16万6千円になっている。人件費はこの中に含まれていないので、その差額で雇うことになるらしい。うまく額面通り運営出来るかどうか大きな問題だが、それはさておき、私の反対の第一の理由はこれだけの金額を投じて、このような内容の繊維会館を上田に建築して何になるかということである。同窓生がこれを利用するといつても、せいぜい会議と宿泊であるが、それと千曲会館もあるし、特に必要とは考えられない。

1,000万円という金額は、いまの業界の状況からみて大金だと思ふ。昭和30年10月から31年9月迄の千曲会費の納入人数率は、総会員数の33%に過ぎないが、この1,000万円を仮に同窓総会員の3,700人に割あててみると、平均2,700円となる。万人がその必要性を認めるような理由があれば、あるいはこの程度の募金は至難ではないかもしれない。しかし果して何人が真にその必要性を認めるだろうか。

繊維会館提案者及び賛成者は、このくらいの金は集まるといつているが、夢想だといつているものも多い。もしこの金額の半分の500万円であつても、もつと有効な用途はないだろうか。仮にこれを貯金しておけば利子だけで毎年30万円以上は固い。これを同窓会の運営や母校の発展のために使つたら、まだしも有効ではないだろうか。

第2の母校の研究施設案については、6月24日に開かれた50周年記念事業計画準備委員会において、主として遠隔地の

支会の代表の方々から予想以上の支持が出て、むしろ驚いた次第である。母校に奉職する身をかえりみて特に感謝に堪えない気持である。しかし現在衆目が一致して推す具体的な好プランがみあたらないせいか、この案は下火になつていようである。

第3は基金案である。この案に対する反対意見の一つとして受益者がかたより易い点を指摘するものがある。それは一つに優秀学生の海外派遣をうたつたせいだろうと思う。成程その気持はわからないことはない。しかし特殊にかたよらない用い方もあるではなからうか、例えば就職運動資金のようなものもひどく欠乏しているらしいし、この千曲会報の費用も潤沢ではないようである。なお千曲会報編集者は全く無報酬でやつていようだが、多少のねぎらいがあつても不思議はないと思う。千曲会の理事会や委員会のようなものが開かれる場合にも、仲々交通費も出ないような実情のようである。学部の図書館をみても、戦争中の外国図書のバックナンバーは全部欠本である。他の大学では大方埋つている実状なものになさけないと思う。又学部の非常勤講師に対する謝金や旅費が極く少いので著名人に講義してもらうことは困難である。このような例をあげれば全くきりがない。このような事柄に対する必要額は、一定の基金があれば利子でまかないうると思われる。勿論将来何かいいプランが出れば、この基金を全額それに投じてもいいと思う。

基金案に対する他の反対意見は、基金を集めるというのでは目的があまりにみみちちくて碌に集まらないだろうという。それでは、看板に財団法人学術振興会の設立をうたつたらどうか。母校50周年記念事業として財団法人学術振興会を設立することは、決してみみちちい話ではないと私は思う。こうすれば、業界からの相当額の寄附も期待出来ると思う。

時の流れははげしい。母校や同窓会の真の発展は、上田に繊維会館を建てて偉容をほこるというようなことでは決して期待できないと思う。財団法人学術振興会の設立も万全の案とはいえないかもしれないが、繊維会館よりは遙かにましてはないかと私は思つている。(番28回)

## 急告 岡先生逝去

元母校教授岡徳治郎先生は昭和19年母校を退任されてから、郷里三重県津市で晴耕雨読の生活をなさつておりましたが、去る9月30日夕刻脳溢血の症状で急逝なされました。誠に痛惜哀悼に堪えません。御遺族の未亡人孝子様は御自宅(津市八幡町西裏)に、嗣子京四郎殿(紡11、長野県染織試験場長)は上田市緑ヶ丘にお住いであります。

## 50周年記念事業には 何をやったらよいか

香山 清和

母校50周年記念事業については、昨年の千曲会總會に於て150万円程度で長年勤続者表彰、物故者慰霊、学術講演会等をやると云う計画案が本部から発表されたが其の後の理事会50周年記念事業委員会に於て50周年と云えば母校最大の行事で、それにそんな貧弱なお座なりな事をやるのならむしろやらない方がよいと云う意見が出て、もつと金額も多くし何か後に残る記念事業を主体として行うように決定した事は眞に喜ぶべきことである。

然らば記念事業として何をやるかと云う事になつたが却々適当なものがない。結局委員会の案として浮上つたのは

1. 上田市内に会館をつくる
2. 母校に研究施設を造つて寄付する
3. 特別活動資金と云うようなものを設定する

の3案となつたが度々の委員会の結果では第2案は殆んど影をひそめ第1案が最も有力になつて来た。然し第3案を支持する人も一部にはある。

之等の3案には夫々得失があり却々一つの線に揃えるには困難な点があるが、私としては今回の記念事業は次の様な考え方で行くべきではないかと思う。

過去の記念事業を振り返つて見ると10周年記念には御眞影奉安殿を造つて母校に寄附した、25周年には針塚校長銅像と千曲会館を造つて母校へ寄附した。又之は記念事業ではないが終戦直後、他の2校は資金として保留したり同窓会館の様なものや建設し何れも同窓会の為に使つたが我々は同じ資金を母校本館建設にあてた。即ち過去に於ては總て資金を挙げて母校に寄附していたものである。

然し今は時代が變つたのである。千曲会もすつかり貧乏になつて記念事業に集めた資金全部を母校に投ずるような餘裕はなくなつたのである。記念事業が同時に千曲会の財産を造る事でありそれによつて多少なり収入を得るようにする事が絶対に必要になつた。貧乏人は馬鹿にされる世の中である。千曲会が多少とも財産を持つ様になれば会員の千曲会に対する関心も強まり会費の納入も多くなるのではなからうか。

その意味に於て第2案は賛成出来ない。誰の思いも同じで之の案の支持者が殆んど無くなつたのも当然と思う。

結局焦点は第1案と第3案の比較に絞られる訳である。

第3案の金を集めて貯金して置きその利子を以て臨機応変に使用すると云う考えは収入と云う点では最も有利であり安全である。その意味に於ては最も推奨出来る方法であるが一方に於て大きな欠点を包蔵している。即ち金を溜めて置く事は記念事業にならない。記念事業と云えば何か具体的な記念物を作るのが本質である。従つて集める目標も立たぬし多く集める事も困難であろう。例えば学術振興資金とか云う名目にするとかそれを千曲会の各種活動資金に使つたでは名と実が反する事になりはしないか？利息丈使用し元金は絶対に手をつけられないようにする方法は幾らでもあるように考える者もあるが、金は元来流動するもので「貯めて置いて何になる」と云うような有力者がいたら元金に手がつかぬとは誰が保証出来るか？戦前ももう少しして10万円（現在3千万円

以上）になると楽しみにしていた金が終戦と云う嵐の前に雲散してしまつたではないか。それに引きかえ別所の厚生施設が拙い計画であつたにも拘わらず、30万円に売れたではないか。今後は、そんな大激変はあるまいが金で持つ事は決して安全な方法ではない。然かも金の使用には常に暗い影がつきまとうものである。世間には幾多のその実例を見せられている。要するに資金設定法は他にどうしても格好な記念事業が見当たらない場合に己むを得ずにする方法であつて餘りにも無策であり餘りにも功利的である。千曲会もこう迄落ちぶれたかとなげかざるを得ない。

最後に第1案の会館案を検討しよう。之は現在千曲会館が殆んどその機能を失つた現在、資金1千万円位を投じ上田市の中央に150坪位の土地を購入し建坪100坪2階建の会館を建設して千曲会の拠点とすると共に市にも利用せしめんとするものである。

階上は100坪の大講堂、階下は日本間3、小会議室1、応接室(クラブ式のもの)1、事務室1、管理人住居1、風呂場1、洗面所1、便所1、貸店舗2、廊下、階段等とする。貸店舗は金融と関連ある業種に貸せ特に内一つは喫茶軽食店とし会館の用に便する。建物は新様式も充分取入れる。各室の坪数や配置図も出来ているが省略する。

之の案によれば千曲会は大きな固定資産を持つ事になり尚年々多少の収入も得られる事になる訳である。従つて記念事業として誠に好適なものと云い得る。然し之れも種々問題がある。第1に採算が採れるかと云う事であり第2は1千万円が集まるかと云う事であり、もう一つは上田附近の者丈しか利用出来ないから不公平だと云うことである。

第1の採算については概念的に云えば無利子の金でやるのであるから採算が採れないとは考えられない。紙面がないので此処には発表しないが具体的な收支計画書も出来ている。それは極めて内輪に見積つたものであるが収入は支出を賄つた上、管理人兼千曲会の事務を執る人の給料を支辨し尚相当の剰餘があるよになつて居る。もつと利益をあげる方法も考えられぬではないが会館は飽く迄公共性のもので会員及び市民の公共的使用に役立たしめるが本旨で餘り營利的な事業をする事はよくないと考え、然しもう少し時を貸して貰えば更に具体的な研究調査を行う事によつて、もつと有利な合理的な経営方法が工夫されるものと確信している。これ丈の資金を投じてこんな収入では……と云う御仁があるかも知れないが全部献納して当然と思つていた昔に較べ財産になり年々多少の収入があるとしたら非常な変化ではないか。

次に資金を集める問題である。会館は1千万円以下でも出来ない事はないが採算上から考えると1千万円以下では非常に不利になるので、1千万円としたが果してそれ丈集まるだろうか？私はこれに対し相当の努力は必要であるが不可能ではないと考える。25周年の時には2万円程集つたと記憶している。50周年には会員は倍加するので4万円の300倍即ち1千2百万円集まると云う数字が出る。然し当時に比し蚕糸業は衰微した、千曲会の組織もよくないと云うだろう。その通りに違いないが紡織や人絹は景気がよい、千曲会の事は自分自身の事であるから努力さえすれば昔の隆盛に戻す事は出来るし又そうしなければならぬ。之等を合せて考えるとこの数字は無理だとは考えられない。

処が現在千曲会の金費納入状況は33%に過ぎない。又現在集めつゝある特別活動資金は520名、30万円しか集つていな

い。然しこの特別経費資金の集り方の悪いのと努めとをせずに出している人丈しか出していないからである。それ故記念事業の醸成金も出す人は死んど会費を出す人丈と考えると1千万円はおるか5百万円も集らない事になる。従来やり方ではそうであろう。それ故1千万円を完遂するには従来と全く異つた抜本的な方策を立てねばならない。それには先づ本部に50周年記念準備委員会事務局を設立し相当多額の予算を計上する。そして会費を納入していない会員を調べ支会長と緊密な連絡の下にその人が会費を納入する能力があるかどうか調査する。それで能力のない人は已むを得ない(之は極めて少数10%以下と思う)が能力があると認められる人には協力して貰うよう支会に骨を折つて頂く。場合によつては本部からも出掛け行てく。

本会戦前の最盛期には60%以上の納入率であつたし現在○大学は60%の納入は帯である云うから少くともその程度に漕付け度い。納入不能者を10%とすれば90%納入も理論的には成立する。そして新しい会員は平均2千円位、古い方で平均5千円位を2年間位の月賦で払つて貰うことはそれ程困難な事とは思わない。尚この外に業者等の寄附も多少考えられる、私は28年の引揚者で生活は軌道に乗らず会員中で収入の点では最底線にある事を自他共に許しているその私が可能と考えた事は絶対に無理ではないと確信している。そしてこの企てが千曲会を再組織する最もよい機会となりこれに加える努力により千曲会が以前にも勝る隆盛になるのを切望している。

次に上田附近の人以外は餘り利用できないからよくないと云う点に対しては確かにその通りである。然し之はどんな記念事業をやつても全部に公平にする事は出来ない。会館案で全会員に均霑するものは毎年の収入と資産(建物)の所有権丈であるが遠方の人でも上田に来て貰えば宿泊、会合、食事等に利用出来る訳である。せいぜい御来田願ひ少しでも公平になるよう利用して戴きたい。会の活動が活潑になればその機会も多くなる訳である。

以上が第1案の概要と批判であるが私自身としても決して良い案とは考えていない。もつとよい計画が出ればそれに乗換える事に決して吝かなるものでない。そう云うような名案の出るのを鶴首して待つている次第である。他の案として纖維總覽のようなものを発行する、土地を買つて桐を植える、図書を買う等々数々の名論卓説が出ており何れも大きな意義を持つているが実行性に於て種々難点があり振替わる事の出来ないのを残念に思う。

今回の記快事業計画に対し色々な議論が沸騰するのは会員諸氏が如何に千曲会を思う心情が深いかと云う事を示し誠に嬉しい限りである。然し何れの方法でもよいが一つの線に決まったら全員一致してその線に協力せられん事を切望する。千曲会が強化する事は母校が榮える事である。千曲会の繁榮なくして母校の盛大はあり得ない。過去にも将来にも二度とない最大の50周年記念事業に対し千曲会の強化の為に切に会員諸氏の一大奮起を願つて止まない次第である。

## ◎第17回千曲会定期總會の御知らせ

第17回千曲会總會、役員会及び監事会は次の要領で開催されることになりましたので御知らせいたします。

各支会長殿

社団法人千曲会

理事長 野口新太郎

＝第17回定期總會開会の件＝

第17回本会總會を開会致します。ついては下記御了平の上貴支会代議員出席方御手配下さるよう御通知勞々御依頼申し上げます。

追つて貴支会より御提案がありましたら来る11月1日迄に御通知願いたく、尚代議員出席不可能の場合は別紙委任状へ署名捺印の上御回送願います。

記

1.日時 11月23日(勤勞感謝の日)午前10時

1.会場 母校会議室

1.議題 (本部提案)

1.昭和30年度收支決算について

2.昭和32年度收支予算について

3.昭和31年度追加予算について

4.会費値上について

5.賛助員推挙について

6.母校創立50周年記念事業について

7.役員改選について

8.その他

1.總會終了後懇親会を会費300円位で開催します。

＝役員会開催の件＝

来る11月23日(勤勞感謝日)午前9時より千曲会館に於て役員会を開会致します。ついては御事務中とは存じますが何卒御出席下さい。

各役員殿

社団法人千曲会理事長

＝監事会開催の件＝

本会の業務執行及び財産状況監査のため左記により監事会を開催致します。御多用中御迷惑とは存じますが御出席下さい。

記

1.日時 11月22日午後1時

1.会場 千曲会館

尚当日印章御持参下さい。

各監事殿

社団法人千曲会理事長

## 学術會議會員選挙の方法(全国区)

**投票**：選出しようとする者2名を連記し、うち1名は自己と同じ専門に属する者から、他の1名は専門にかかわらず自己と同じ部に属する者から選ぶ。註：投票用紙は11月下旬に発送されます。投票締切は12月10日ですからこの日迄に必着するように送つて下さい。

**当選者の決定**：専門別の得票が最多の者を当選者とする。次に専門別得票と、専門にかかわらず得票の合計の最多のものから豊次、専門別当選者を除いた専門にかかわらず定員だけ当選者となる、例えば第六部では15名。

特別活動資金御寄附者 (9月30日現在)

金1500円  
若林 茂 一 (蚕 12)  
茅野 功 (蚕 19)  
白井 要正 (蚕 12)  
笠原 正己 (蚕 15)  
若林 新一 (蚕 10)  
桜井 利 (蚕 6)  
飯田 利作 (蚕 1)

金1200円  
佐藤 一 (紡 2)

金1000円  
山田 博道 (蚕 38)  
深井 安児 (蚕 28)  
大谷 芳雄 (蚕 9)  
有賀 文雄 (蚕 1)

金900円  
高橋 英 (蚕 21)  
松村 惠一 (蚕 20)  
柳沢 平夫 (蚕 20)  
大尾 正敏 (蚕 22)  
飯塚 治 (蚕 17)  
高木 修 (蚕 20)  
宮崎 連 (蚕 17)  
小中 潔 (蚕 10)

金600円  
宮崎 俊雄 (蚕 17)  
松井 二 (蚕 18)  
倉沢 秀一 (蚕 30)  
小中 利三 (蚕 27)  
門田 秀太郎 (蚕 17)  
滝沢 通太郎 (蚕 10)  
宇田 哲郎 (蚕 16)  
田沢 雄 (蚕 25)  
井上 柳静 (蚕 23)  
青木 悟志 (蚕 24)  
宮久保 繁孝 (蚕 13)  
大川 一行 (蚕 29)  
山崎 晋己 (蚕 24)  
山中 勝英 (蚕 20)  
柳沢 英人 (蚕 19)  
等々力 柳宣 (蚕 17)  
近藤 正安 (蚕 22)  
倉安 恒己 (蚕 3)  
富仲 夫 (蚕 21)  
北永 恭一 (蚕 9)  
小沢 正己 (蚕 26)  
山沢 利正 (蚕 38)  
山本 正人 (蚕 14)  
白井 四良 (蚕 20)

金750円  
白井 四良 (蚕 94)

金500円  
伊藤 常治 (化 4)  
宮野 礼 (化 2)  
西野 礼 (化 33)

坂口 静次 (蚕 28)  
渡辺 綱男 (蚕 23)

金450円  
奥野 芳男 (蚕 29)  
中市 川忠 (蚕 27)  
岩佐 隆太 (蚕 32)  
熊田 隆次 (蚕 27)  
田代 志 (化 2)

金400円  
鈴木 彦佐 (蚕 26)

金300円  
加々井 精喜 (蚕 12)  
鎌原 俊雄 (蚕 1)  
中村 美 (化 7)  
白沢 清 (蚕 8)  
小尾 郁雄 (紡 2)  
尾山 正德 (紡 4)  
岸初 春日 (蚕 11)  
原男 昭 (化 4)  
馬場 昭 (化 1)  
山岸 啓男 (蚕 2)  
金子 治 (蚕 34)  
柳瀬 久治 (蚕 26)  
中村 順甲 (蚕 32)  
若柳 林 (蚕 37)  
田中 晋 (蚕 37)  
浅山 晋 (蚕 10)  
茨木 茂 (蚕 17)  
鈴木 仁 (蚕 27)  
酒井 泉 (蚕 )  
倉中 正美 (蚕 36)  
小田 祥 (蚕 19)  
小浦 林 (蚕 29)  
秋野 和 (蚕 4)  
山二 嘉隆 (蚕 34)  
川田 隆清 (蚕 27)  
松下 豊三 (蚕 2)  
原康 三 (蚕 3)  
上原 康 (蚕 1)  
杉坂 光 (蚕 1)  
宮島 輝夫 (蚕 33)  
加藤 德一 (蚕 24)  
渡辺 沼二 (蚕 7)  
西山 正江 (蚕 34)  
山口 志行 (蚕 27)  
小林 高忠 (蚕 2)  
河内 謙清 (蚕 30)  
冬泉 清 (蚕 26)  
甘利 雅人 (蚕 35)  
本之 介 (蚕 2)  
山本 鉄 (蚕 3)  
平山 敬 (蚕 4)  
佐藤 尚 (蚕 3)  
所田 幸 (蚕 6)  
松井 和 (蚕 1)

依田 達郎 (化 7)  
佐藤 理 (化 2)  
平川 守 (蚕 31)  
尾崎 輝 (蚕 30)  
根本 剛 (蚕 1)  
飯田 善彦 (化 3)  
武捨 利和 (蚕 29)  
児玉 和己 (化 7)  
田沢 義隆 (蚕 6)  
滝村 律子 (化 8)  
小三 林三 (化 1)  
浦秀 夫 (化 4)

(訂正)  
前回受領報告  
金500円  
的場 小六 (蚕 6)  
(第2回追加分)

会費領収 (9月30日現在)  
水城 孝勇 (蚕 11)  
丸山 俊一郎 (蚕 1)  
水谷 郷一 (蚕 3)  
石田 三雄 (蚕 24)  
手塚 俊男 (化 5)  
福島 正 (蚕 36)  
牧野 嘉太郎 (蚕 31)  
中野 田太郎 (蚕 7)

入会金納入者  
金井 節博 (蚕 3)  
松野 輝彦 (蚕 21)

昭和31年度会費  
星野 拓弘 (蚕 16)  
鈴木 教吾 (蚕 8)  
石井 光一 (蚕 30)  
中野 匡雄 (蚕 36)  
小林 俊平 (蚕 )

未納会費納入者  
金1300円  
小林 俊平 (蚕 )

金800円  
石井 光一 (蚕 30)

金200円  
松野 輝彦 (蚕 21)

昭和31年度会費納入者  
渡辺 博 (化 2)  
茅野 功 (蚕 19)  
窪田 巖 (蚕 )  
柳沢 六平 (蚕 16)  
小泉 郁雄 (蚕 24)  
青木 高 (蚕 21)  
高橋 直 (蚕 23)  
大塚 直人 (蚕 26)  
西沢 善徳 (蚕 27)  
山際 明 (化 2)  
竹花 亮一 (化 7)  
平川 守 (蚕 31)  
白丸 井山 (蚕 12)  
丸玉 和要 (蚕 33)  
大屋 正尚 (蚕 7)

未納会費納入者  
金1300円  
丸山 巖 (蚕 33)

金500円  
伊藤 敬四郎 (蚕 32)

金400円  
柳沢 二 (蚕 17)  
児玉 和己 (化 7)  
中沢 利三 (蚕 17)  
浜付 一彦 (蚕 19)

金200円  
飯島 正胤 (蚕 2)  
久保 正樹 (蚕 3)  
中島 角太郎 (蚕 14)  
宮崎 秋雄 (蚕 15)  
北原 昌雄 (蚕 17)  
中村 秋武 (蚕 18)  
入場 保 (蚕 20)  
有川 順一 (蚕 24)  
伊藤 嘉三郎 (蚕 26)  
倉沢 秀一 (蚕 27)  
馬場 忠 (蚕 30)  
高湯 精理 (蚕 34)  
松崎 裕三 (蚕 36)  
山崎 製 (蚕 37)  
栗林 悦 (蚕 36)  
吉田 実 (蚕 2)  
大谷 治 (蚕 9)  
田原 口 (蚕 12)  
茂原 重 (蚕 17)  
山木 慎 (蚕 18)  
荒木 悠 (蚕 23)  
社領 文 (蚕 29)  
島津 幸久 (蚕 30)  
清水 利男 (蚕 36)  
青木 政 (蚕 37)  
青木 治三 (蚕 4)  
小村 倫平 (蚕 10)  
瀬戸 出 (蚕 26)  
神林 茂 (化 4)  
小椋 慶一 (蚕 1)  
稲成 子 (蚕 1)  
栗林 成 (蚕 1)  
柳沢 ひさ子 (蚕 1)  
竹内 あい子 (蚕 6)  
曲尾 佳 (蚕 8)  
大島 時 (蚕 )  
中野 功 (蚕 19)  
山崎 遠夫 (蚕 29)  
山崎 巖守 (蚕 19)  
平高 隆江 (蚕 31)  
金100円  
鈴木 高行 (蚕 24)

佐藤(利)(春)両先生  
御退官記念資金中間  
報告

佐藤利一先生分

- 金600円 山本 岩三郎(蚕 7)
- 金500円 宮堀 俊雄(蚕 17)
- 笠原 正己(蚕 15)
- 万石 安太郎(蚕 9)
- 宇田 哲郎(蚕 25)
- 大久保 孝一(蚕 29)
- 金300円 小宮山 太助(蚕 8)
- 倉塚 飯塚 安高 行(蚕 17)
- 鈴木 山正 彦(蚕 20)
- 鈴木 彦 彦(蚕 26)
- 金200円 徳永 雄二(農 2)
- 水口 米夫(蚕 28)
- 広瀬 洋(蚕 32)
- 中倉 恒夫(蚕 21)
- 東 正夫(蚕 28)
- 伊藤 文雄(蚕 32)
- 江口 嘉清(蚕 22)
- 内藤 良一(蚕 14)
- 清水 良一(蚕 25)
- 武井 仙太郎(蚕 24)
- 宮川 千三郎(蚕 20)
- 竹内 好武(蚕 23)
- 堀内 好彬(蚕 33)
- 山浦 和友(蚕 35)
- 山浦 友樹(蚕 31)
- 内藤 善永(農 5)
- 金100円

- 泉辰 雄(蚕 24)
- 高橋 威(蚕 35)
- 土屋 拓大(蚕大 1)
- 柳沢 義之(蚕 35)
- 宮下 久吉(蚕 32)
- 小林 小一郎(蚕 34)
- 佐藤 三三(蚕 34)
- 金沢 昭三郎(蚕 35)
- 田月 政明(蚕 31)
- 望月 政明(蚕 31)
- 笹原 定雄(蚕 34)
- 石谷 雄一(蚕 38)
- 中島 睦男(蚕 30)

佐藤春太郎先生分

- 金600円 宮堀 俊雄(蚕 17)
- 金500円 笠原 正己(蚕 15)
- 佐藤 善三(蚕 15)
- 万石 安太郎(蚕 9)
- 宇田 哲郎(蚕 25)
- 大久保 孝一(蚕 29)
- 金400円 山本 岩三郎(蚕 7)
- 金300円 小宮山 太助(蚕 8)
- 倉塚 飯塚 安高 行(蚕 17)
- 鈴木 山正 彦(蚕 20)
- 鈴木 彦 彦(蚕 26)
- 金200円 内藤 善永(農 5)
- 徳永 雄二(農 2)
- 水口 米夫(蚕 23)
- 広瀬 洋(蚕 32)
- 中村 盛一(蚕 1)

- 敬茂 夫(蚕 36)
- 清水 出真一(蚕 1)
- 宮本 真男(蚕 1)
- 宮沢 孝雄(蚕 1)
- 深井 真澄(蚕 2)
- 齊藤 浩(蚕 4)
- 倉沢 恒夫(蚕 21)
- 西爪 芳智(蚕 2)
- 田爪 正紀(蚕 30)
- 伊藤 藤文男(蚕 32)
- 塚田 信二(蚕 25)
- 江口 嘉清(蚕 22)
- 古内 藤良雄(蚕 22)
- 清水 武良一(蚕 14)
- 武井 井仙太郎(蚕 24)
- 宮川 千三郎(蚕 24)
- 竹内 好彬(蚕 23)
- 堀山 内浦 和友(蚕 33)
- 山浦 友樹(蚕 35)
- 山浦 友樹(蚕 31)
- 金100円 泉辰 雄(蚕 24)
- 高橋 威(蚕 35)
- 土屋 拓大(蚕大 1)
- 柳沢 義之(蚕 35)
- 宮下 久吉(蚕 32)
- 小林 小一郎(蚕 34)
- 小佐藤 三三(蚕 34)
- 金沢 昭三郎(蚕 35)
- 望月 政明(蚕 31)
- 田月 政明(蚕 31)
- 沢田 四郎(蚕 33)
- 原谷 定雄(蚕 34)
- 石谷 雄一(蚕 38)
- 中島 睦男(蚕 30)
- 以上

窪田潤先生御退官記  
念資金中間報告

(9月30日現在)

- 金10,000円 岡本 栄一(蚕 15)
- 金1000円 星野 拓弘(蚕 16)
- 馬場 長市(蚕 16)
- 鈴木 玄九(蚕 18)
- 千笠 木葉 正己(蚕 15)
- 金600円 市原 文雄(蚕 21)
- 小畑 如忠(蚕 26)
- 高橋 英(蚕 21)
- 笠原 義人(蚕 18)
- 福島 鋼治郎(蚕 12)
- 金500円 牧野 道男(蚕 20)
- 松野 輝彦(蚕 21)
- 白井 要範(蚕 12)
- 金400円 宮堀 俊雄(蚕 17)
- 小平 光雄(蚕 13)
- 尾沢 敏男(蚕 22)
- 金300円 小宮山 太助(蚕 8)
- 金200円 田中 信重(蚕 27)
- 田中 重徳(蚕大 2)
- 杉浦 市太郎(蚕 33)
- 池田 辰よ(蚕 5)
- 小泉 辰雄(蚕 24)
- 小林 一小郎(蚕 34)
- 小野 昭八(蚕 35)
- 柳沢 義之(蚕 1)
- 若林 茂一(蚕 12)

本会日誌

9月15日(土)母校創立50周年記念  
事業計画について継続審議のため  
小委員会を開催。

10月13日(土)上記記念事業の小委員  
会を再び開催。

編集後記

10月号が発刊されないうちに、11月号の編集着手を命ぜられた。月刊となると目が廻るようだ。時折熱のある読者から編集の拙劣さを指摘されたり、掲載記事の責任を問われたりする。熱心に読んで頂けたしと思つて有難く爾後の参考にしていきます。さてちよつと余談を一つ……週日友人のO君が大阪(某会社)から突然訪れた。本学部卒業生の優秀な者を推薦してもらいにわざわざやつてきたという。別に特筆することでもないが、O君の気持はこうである。O君の会社は3人程上田の卒業生が頑張っているが最近ほとんど後継を絶たれている。そこで何とかして後輩を引張るべく常に社長直々に、上田の学生の真面目さや熱心さを宣伝これつとめ、昨年一昨年も求人当学部を送り、採用試験を受けさせたのだが、いかんせんひどいばかり寄越すんで、京大出や他の大学に対抗して問題にならないという。社長は今年もう君の学校へは求人を出さないというのだそうだが、母校の名譽と面目にかけて腹の虫が治らないO君は、屈せず社長に喰い下つて、もう一度だけ試験を受けさせてくれるよう強引に頼みこんだ。……その結果学校当局の理解もあつて2人の学生(化学科1、紡織科1)が優秀な成績で入社パスできた、O君の熱意も報いられた。O君は織機出身30を越したばかりの青年社員である。兎角くちかずが多く、実行力の乏しい千曲会員の中に、O君のような卒業科別も超越し母校愛に富んだ先輩が1人でも多ければ同窓精神も自ら昂揚し、就職難も緩和されていくではないだろうか。では会員の皆様御健康と本紙の隆盛を祈つて……(田中記)

編集理事 田口亮平、編集総務 小山長雄、編集部員 古平屈紀 石川博 今井甲子男 木藤半平 中原武 土屋幾雄、西村善次 田中茂光